

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
学び合い 共に遊び 励む 意欲あふれる浜崎っ子の育成 —やればできる 今日も来てよかった浜崎小学校—	① 確かな学力づくり(確かな学力と自信を育てる教育の推進) ② 豊かな心づくり(人間関係づくりの基盤としての挨拶運動) ③ 全教職員が学校経営参画の意識を持ち、学校改善を図る ④ 地域に根ざした開かれた学校づくり(保護者・地域との連携を推進し、信頼される学校づくりに努める)

**3 目標・評価**

**① 確かな学力づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進 ・服務規律の保持	・学年の枠を超えて授業を見せ合い、授業力の向上を図る。 ・教職員の服務規律保持の意識を高め、保護者や地域の信頼に応える。	・校内研をとおして、相互参観・相互評価を行い、指導方法と学習環境の改善を図る。 ・学期毎に学力向上アクションプランをPDCAの視点で見直し、継続して成果と課題を明らかにする。 ・職員会議や連絡会で、資料を活用しての指導や職員室掲示により意識化を図る。
教育活動	●志を高める教育	・自分の夢や目標の実現にむけて、努力しようとする姿勢を高める教育活動の推進	・自分の夢や目標の実現にむけて、努力しようとする気持ちがあると答える児童を70%以上を目指す。	・自分が将来就きたい職業を考えさせたり、調べさせたりする時間を設定する。 ・講師を奨励し、体験的な活動や講演会を実施する。
	●学力の向上	・各種調査を活用した実践的な授業改善 ・朝の時間等を活用して、表現力、基礎基本の徹底による児童の学力の向上	・全国・県学習状況調査の分析を行い、そこから課題を明確にして授業改善を行い、全教科・全観点において、県平均以上をめざす。 ・朝のめざらタイム等の時間を活用して、条件作文と基礎的な知識理解の深化を図る学習に取り組み、表現力と知識理解の向上を図る。 ・家庭学習内容の充実を図る。	・校内研究を推進し、数学的活動や表現活動を取り入れた授業改善に取り組む。 ・学習状況調査の分析を行い、各学年における授業改善のポイントと取り組みを明確にする。 ・週2回のめざらタイムの徹底と充実を図るため、条件作文の課題集と学習プリントを準備し、級外職員も採点や補充学習を支援する体制を作る。 ・県からの配付物や本校作成の学年に応じた家庭学習内容例を配布し、家庭学習の充実を図る。
	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣、学習習慣の育成 ・家庭との連携	・あいさつ、ことばづかい、時間励行の定着を図る。 ・人の話をよく聞く態度の定着を図る。 ・立腰教育を推進する。	・元気のよいあいさつをする、始まるの時間を守る、教師や友達の話をよく聞くの3点のについて、目標設定と反省を行う。 ・聴型、話型、立腰の掲示を行う。 ・連絡帳の活用と毎週の学級通信で家庭との連携を強化する。

**② 豊かな心づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権同和教育の推進 ・教育相談機関との連携	・年間指導計画や児童の実態に即した道徳の授業を実施する。また、参観日に1度は授業を公開し、保護者の道徳教育への理解と協力をえられるようにする。 ・相手のことを思いやる仲間づくり、学級づくりをする。 ・教育相談の充実と活用。	・資料の選択、活用を吟味し、体験活動との関連を図りながら授業を展開していく。 ・年3回、「いのち」「なかま」「共生」の視点で全校道徳の授業を行う。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り、よりよい対応に努める。 ・児童へのアンケートとQ-Uテストをもとに必要な児童との個人面談を行う。
	●いじめの問題への対応	・いじめのない学校づくり	・互いを認め合う仲間意識の醸成 ・児童個々と学級のわずかな変化も見逃さない教師の意識と指導力の向上を図る。	・県および校内のいじめアンケートを計画的に行い、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。 ・教師間、保護者と教師の情報共有と指導の徹底を行う。 ・長期休業中に職員研修を行い、職員の意識向上と指導力の向上に取り組む。
	○生徒指導の充実	・望ましい生活行動様式の確立	・「日常生活の基本的行動様式の実践」に基づいて全職員の共通理解による生活指導を行うとともに、「あいさつ」「掃除」「マナー」の向上の3点を重点的に行う。 ・あいさつ一番の学校を目指す。	・「あいさつ」「掃除」「マナー」の具体的な向上目標を学期ごとに決めて、委員会活動での取り組みを中心に、児童の自主的な活動を通して徹底を図る。 ・生活委員会で月のはじめと終わりに、朝のあいさつ運動を実施する。 ・学期に1回、年3回の100点生活を親子で取り組む。
	○児童活動の推進	・児童の自主活動の推進 ・異年齢での仲間づくりの推進	・自発的な活動を通して、自分たちの学校生活をさらに豊かにする。	・学級活動を通して、自治的・実践的な態度を育成する。 ・委員会活動を当番のみでなく、自主的に企画・運営することを目指す。 ・代表委員会で、自分たちの生活を豊かにする議題を考えて活動する。 ・異年齢集団づくりをすすめるため、高学年でのリーダーの育成を行う。
	○要支援児童対応	・要支援児童への適切な対応	・要支援児童への対応力の向上と校内支援体制の充実を図る。	・生活打ち合わせ会等の機会を活用して情報交換を行う。 ・児童理解研修会で支援対象児を明確にし、校内支援委員会につなげ、当該児童、担任への支援を行う。学習や生活に課題を抱える児童には、教育相談や保健部、生徒指導と連携し、支援チームを作って対応する。 ・支援のための校内研修を行い、職員のスキルアップを図る。

**③ 健やかな体づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・運動習慣の改善や定着化 ・望ましい生活習慣の形成 ・望ましい食習慣の形成	・休みに外遊びが好きな児童を80%以上にする。 ・異年齢集団と関わる場づくりを年間10回以上設定する。 ・全校児童欠席0の日、皆勤賞を増やす。 ・朝食をとって登校する児童の割合を90%以上にする。	・外遊びの奨励や呼びかけを行う。 ・持久走大会に向けてのマラソン週間の実施。夏季休業中の個人水泳指導の実施。 ・浜っ子タイムを活用し、運動遊びを多く取り入れる。 ・早寝、早起き、朝ごはんの習慣化をはかり、欠席を減らす。 ・朝食をとらず登校する児童の保護者に個別に連絡をとる。授業での食育をすすめる。

**④ 地域に根ざした、開かれた学校づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・規範意識、モラルの高揚 ・業務効率化の推進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合う時間を確保する。 ・各担当業務の情報共有を強化する。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に実行。 ・業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、職員間のフォロー体制を強化する。
	○開かれた学校づくり	・学校の情報公開 ・保護者、地域との連携	・学校便りの発行、学校HPとはなまる連絡帳の充実と適宜更新を行い、学校教育の情報を積極的に公開する。 ・PTAや地域団体と連携を図り、保護者や地域の人々をGTとして積極的な学校教育への参画を促す。	・学校や学級便り、学校HP、はなまるメール等での積極的な情報発信を行う。 ・PTAや諸団体、地域の方の協力体制を維持し、児童の学習活動に積極的、計画的に取り入れていく。
	○危機管理体制の整備	・危機管理体制の整備 ・保護者、地域との連携	・危機管理マニュアルを改訂するとともに、職員や児童に周知し、より実践的なものとする。 ・警察や市教委からの情報、校内でのできごと、保護者の気付きを共有し、重大事故防止に取り組む。 ・保護者のはなまるメール登録95%をめざす。	・各種訓練の反省をもとに、随時危機管理マニュアルを見直ししていく。 ・児童の安全確保にかかわる情報をメールや便りて提供し、危機意識と子どもへの指導を共有する。 ・各学期ごとにはなまるメールの登録状況を確認し、未登録者への登録を促す。
教育活動	○小中連携教育の推進	・小中学校・地域との連携	・小中連携3部会(地域学校間交流活動推進部、サークルクラブ活動推進部、ひまわりグループ交流推進部)の活動を推進する。 ・小中学校共通の取組を行い、中学校へのスムーズな移行を図る。	・地域の方の協力のもとに小学5・6年生と中学1年生が合同で21サークルクラブを年4回実施し、児童生徒間の交流を行う。 ・小中交流会を実施し、3部会の話し合いを行ったり、授業参観を行ったりすることで各学校職員間の共通理解・相互理解を図る。 ・浜玉中校区「学習の取組み」の共通理解を行い、徹底する。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目